

資料涉猟余話

その141

明治末から大正初年に発行された三冊の『伊那の華』(原勇馬編・発光堂刊)は、伊那谷最初の美術誌とも言われ、当時伊那谷にあった書画の名品が掲載されている。表紙には26作品、式號には27作品、参號には25作品がそれぞれ載っている。

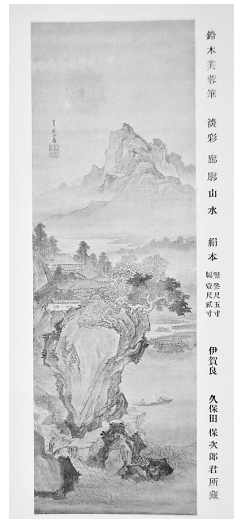
ここではそれらの作品と作者を概観し、その傾向や特色等を考察してみた。作品は古美術名

相阿弥(一五二)都四条派の祖松村貞五、狩野派中興の祖春(一七五二)一八狩野探幽(一六〇二)一、その弟松村景一(一六七四)、江戸中文(一七九七)一八期の文人画家池大雅(四三)、円山応挙の門人(一七三三)一七七、人長沢蘆雪(一七五〇)一、与謝蕪村(一四)一七九、岸派七二六)一七八三、の祖岸駒(一七五六)六、花鳥画を得意とした名古屋の山本梅逸(一七八三)一八家浮田一蕙(一七九五)一八五、京都呉春門の岡本豊彦(一七七三)一八〇七、飯田とも一八〇七)等である。

明治末の美術誌『伊那の華』中 〜掲載の絵画について〜

鎌倉貞男

江戸南画の大成者谷一八三八)、大阪文文晁(一七六三)一人画壇の岡田半江(一七八二)一八四八、書画両方をよく八、京都の儒学者皆した京都の儒学者皆川淇園(一七三四)一五〇)一八〇七)等



鈴木芙蓉画「廊郭山水」



岸駒画「猛虎図」

比較的新しい近代の作家としては、京都南画壇の重鎮田能村直入(一八〇四)一八〇七)漆芸家としても名高い柴田是真(一八〇七)一八九一)明治期の文人画家田崎草雲(一八一五)一八八八)等に、郷土出身の画家鈴木芙蓉(一七八二)一八六二)が入っている。意外なことに、同じく伊賀良出鉄斎(一八三六)一八二四)の作品も無

以上通り、この頃、当地で珍重されていた絵画は、近代絵画ではなく、江戸時代中・後期に活躍した著名画家の作品が多く、今日とはまた違った様相を呈していたようである。